

英米文化学会会報

#012 Published 10 Aug 1992 Not for sale

【大会実行委員会からのお知らせ】

<<第10回大会について>>

既にお知らせしました様に、英米文化学会第10回大会が、8月27日(木)・28日(金)に広島ガーデンパレスにて行なわれます。現在のところ、会員の参加申込者数45名となっており、またミルワード先生の御講演があるため、広島県在住の先生方から、既に多数の間合わせが来ており、盛会が予想されます。奮ってご参加下さい。

なお、大会の発表用レジュメを同封致しました。

【企画委員会からのお知らせ】

<<発表者募集—英米文化学会第80回例会>>

平成4年11月21日(土)に、第80回例会を都内で開催します。つきましては、以下の要領にて発表者を募集致します。

申込先：企画委員会(小野 昌 宛て)

発表者氏名、所属、研究発表題名、希望する発表形式(A, B, C)を明記し、発表要旨(400字程度)を添えて、郵送のこと。

締切：平成4年9月末日(当日消印有効)

※最近は入会希望者が多くなりました。新入会員は入会后1年を目安に、自己紹介を兼ねておりますので、出来る限り速やかに例会での研究発表、『英米文化』への投稿をなさして下さい。発表、投稿の無い会員は、分科会活動に参加できないなどの制限を受けますので、ご承知おき下さい。

【編集委員会からのお知らせ】

<<投稿募集—『英米文化』第23号>>

『英米文化』第23号の原稿を募集しています。締切は10月末日。投稿原稿送付先は、学術委員会(深井 宏一 宛て)です。詳しくは、別紙の『英米文化』投稿規定をご覧ください。



【各分科会からのお知らせ】

◆第一分科会からの報告 吉田俊実

<第6回会合>

日 時：5月16日3時より

場 所：桐原書店会議室にて

出席者：佐久田英子、君塚淳一、吉田俊実

会合内容：“Lacan and the Discourse of the Other”の精読（テキスト pp.162-165）
議論の対象となった用語・・・ナルシズム

<第7回会合>

日 時：7月17日3時より

場 所：多摩市桜ヶ丘スクエア3F

出席者：五味田幸夫、相良英明、佐久田英子、須田理恵、吉田俊実

会合内容：“Lacan and the Discourse of the Other”の精読（テキスト pp.165-166）

※次回会合予定 8月7日 2時より 多摩市桜ヶ丘スクエア3Fにて

◆第二分科会からの報告 宍戸絵里香

〔第2回会合〕

日時：5月30日5時より

場所：談話室 滝沢 新宿店

出席者：小沢玲子 君塚淳一 五味田幸夫 佐藤成男 宍戸絵里香 高取清

今後の活動内容を検討の結果、PRIZE STORIES 1992 -- THE O.HENRY AWARDS --(William Abrahams 編/ Anchor Books)を中心に現代アメリカ文学を概観し、1980年代から1990年代にかけての文学の潮流を多角的に考察していくことに決定しました。次回はCynthia Ozickの "Puttermesser Paired" (pp.1~59)をテキストにして、佐藤成男氏の発表を軸に、討議を重ねる予定です。

〔第3回会合〕

日時：7月11日 3時より

場所：文京女子短期大学 高取研究室

出席者：小沢玲子 君塚淳一 相良英明 佐藤成男（発表者） 宍戸絵里香 高取清

O.HENRY 賞を受賞したCynthia Ozickの "Puttermesser Paired" を考察。二律背反的要素の統合と歪みの問題等、内容を検討しながら、二重構造になっている物語構成、特徴ある文体も併せて分析し、"Puttermesser Paired"における作家の問題意識を探りました。次回はLucy Honingの "English as a Second Language", Amy Herrickの "Pinocchio's Nose" を、小沢玲子・君塚淳一両氏の発表を中心に研究する予定です。

※次回会合予定：9月26日 2時より 文京女子短期大学 高取研究室にて

◆第三分科会からの報告

中村 豪

去る6月1日に第1回目の分科会を正式に行ない、会としての研究対象や手順等を話し合いましたが、いろいろな案が出されはしたものの、統一的なテーマが決定されるまでに至りませんでした。その後、7月7日にも案を持ちよって議論を重ね、大体の研究方向が固まりました。更に、7月29日に第3回目の分科会を開きました。その会合の結果、当初の計画通り、主としてシェイクスピア作品とその材源との関係を探るというアプローチに落ち着きましたのでお知らせいたします。取り扱う作品は、Romeo and Juliet, The Merchant of Venice, Troilus and Cressida, Measure for Measure, King Learの5作品です。なお、第2回目から山根正弘氏が本分科会の新メンバーになりましたので、第三分科会の会員総数は5名になります。次回の集まりは、9月中旬を予定しています。（代表は、中村に決まりました。）

《会員の新聞紹介》

宮本正和著

『時の海を超えて』

ホメロス社 2,300円

この本は著者の卒業論文以来取り組んできた、シェイクスピアの『リア王』研究の集大成とも言うべき論文集である。『ハムレット』に関する数章がふくまれてはいるものの、基本的には『リア王』に焦点が絞られている。シェイクスピアの作品の中でも、最も難解とされるこの作品解釈に、著者は出来る限り独自の視点を持ち込もうとしている。例えば、コーディーリアの死の場面を、道化は真実を語るという意味において、道化の再現とみなし道化の解釈を大胆に拡大している。道化はリアのかけぼうし(shadow)であるが、朝の影は長く、時が経つに連れて短くなり、真昼になってリアに見せる影が無くなった道化は姿を消すとす。あるいは鏡の比喩を多用し、忠臣ケントはリアにLearをRealと読ませる為に用意された人物であるとする興味ある見解が示されている。庶子であるエドマンドの悪行に対し著者は、彼を基本的には善人であるとし、彼の存在は既成の社会通念を放棄し、真の価値の吟味役として出発し、その成長の終りに彼の反社会的な考え方が最後まで持続したにもかかわらず、精神的価値を最終的には認め、リアに肉体的な次元での死を超越した純粋な愛のアイデアを見せるための導入役であったとしている。

膨大な数にのぼるシェイクスピア批評のなかにあって、それに押し潰されることなく独自の見解を展開するのは極めて困難な作業である。著者はこの作業に果敢に挑戦され、ある場合には成功し、ある場合には失敗であったかもしれない。しかしその努力は大いに評価されて良いのではないだろうか。一読をお勧めする所以である。(小野昌)

エレイン・S・エイベルソン著

椎名美智・吉田俊実共訳『淑女が盗みにはしるとき』--ヴィクトリア朝期アメリカのデパートと中流階級の万引き犯--When Ladies Go A-Thieving: Middle-Class Shoplifters in the Victorian Department Store--

国文社 4,120円

本訳書(A5判, 353ページ)は原著者が女性、訳者たちも女性である。標題が示すように、中流家庭の主婦(独身女性もいる)が、なぜ万引きを犯すか、その過程の種々相を豊富な資料を駆使してまとめたものの翻訳で、いわば、女性の万引き史のようなものである。女性の万引きと十九世紀後半のデパートの発達が大いに関係があることが本書を読めば一目瞭然、デパートが目ざましい発達を遂げるにつれて、女性の万引きも著しく増えていったらしい。それを一般には「病的盗癖症」やジェンダーで片付けていたらしいが、フロイトが出現し、ましてや二十世紀の今日では、そう簡単に片付けられない問題だということである。

万引きとは無縁の大部分の人々は「誰でもみんな子供のときに万引きをしたことがあり...」(p.267)と言われたら驚いて否定するであろうが、キリスト教国では人類の祖と見なされるアダムやイヴにすでにその兆候がある。とにかく人間は誘惑には弱い一面をもっている。それだけに、どうやって種々の誘惑から逃れるかが、われわれ人間の負っている試練なのであるが、デパートの側からすると、店に入ってくる人々をどうやって誘惑するか、つまり、どうやって欲望をつくり出すかにあるのだから、強い自制心が必要になる。

デパートの利用客は全体的には女性の方が圧倒的に多いと思うが、人間の欲望には際限がないのだから、中流階級の女性だからといって、「なに一つ不自由のない女性たち...」(p.247)というのは当たらないし、また「夫が妻に自由に使える金をあまりあたえようとしない」(p.222)とあれば、「多くの女性は万引きを、ある種の予算削減手段のように考えていたと思われる。」(同ページ)ということになる。

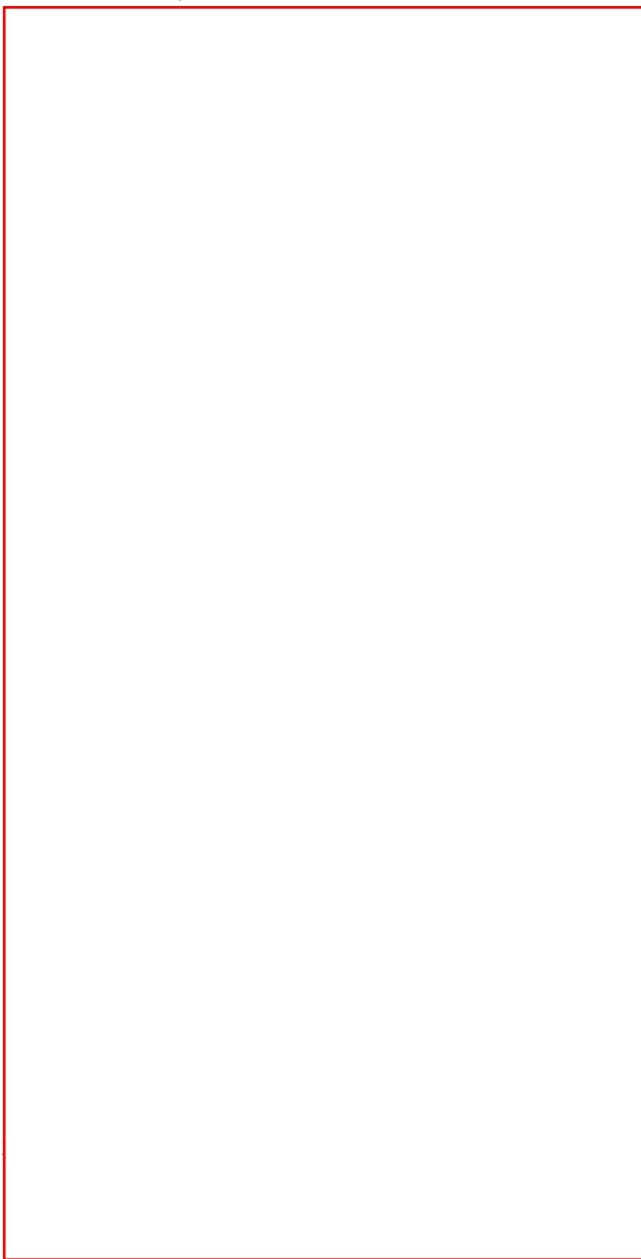
店の品物を黙ってとれば、万引きということになるが、その動機は千差万別で、とても一筋縄で片付く問題でないことがよく分る。

訳文は平明で読みやすく、共訳にもかかわらず文体の統一がとれており、訳者たちの労苦がしのばれる。しかも学術書の翻訳ということもあって、巻末には章ごとにまとめて注が施され、それが実に68ページにも及び、全体の1/5に相当する量である。スラスラ読めるのでぜひ一読をお勧めしたい。

(勝浦吉雄)

【事務局からのお知らせ】

<<会員の動き>>



Teaching the alphabet. Woodcut from *Ein heylsane lere und predig* by Geiler von Keiserberg.

《出版》

吉田俊実： エレイン・S・エイベルソン著『淑女が盗みにはしるときーヴィクトリア朝期アメリカのデパートと中流階級の万引犯』 国文社 （共訳）

編集発行

英米文化学会編集委員会

発行責任者

相良英明、中村豪、池田広子、宮崎敬子、山根正弘、君塚淳一
〒 相良英明